

鳥取・智頭～大山を巡る 初日

2009 MOK スクールフィールドツアー -鳥取・智頭～大山-

今日は鳥取・智頭～大山の1泊2日のツアーの初日です。
林産地、原木市場、製材所、重要文化財ふくめてたっぷりのウッド尽くしの学習ツアーでした。

まずは、津山の**鈴鹿製材所**。

地松製品の中でも一番だと思えます。

構造材、枠、フローリング、階段板まで、黒松・赤松・カラ松など部位ごとに特徴づけて製品としています。

人工乾燥もしますが、松特有の油脂が抜けない程度にゆっくりと乾かします。(70℃)
残材は人工乾燥の燃料となり、無駄なく皮から芯材まで有効利用しています。

地松はもう利用できないのではないかとと思われる工務店、設計者の方々、是非とも鈴鹿製材を訪ねてください。

普通の松構造材で¥80000/m³くらいで揃います。



やはり松にも伐採時期があり10月～2月と限られます。(寒切りです)活動が活発な時期に伐採された松は、白太にカビが生え、商品になりません。
俗にいう「アオ」が入り、見た目がとても良くないのです。



アオ(カビ)が出た松。

中国地方の松は、夏目と冬目がはっきりしており、油分が多く経年により風合いが増すのが特徴です。
色の変化も木材の楽しみのひとつです。



超仕上げで手触りが良いです。



鈴鹿製材の倉庫です。

フローリング材、階段板だけかと思いきや、奥には、黒松の大黒柱や幅広の板、大判の板を見つけました。大トロ、中トロの地松が天然乾燥中、ストックされています。



次は、杉ブランドである智頭杉を扱う、[\(株\)サカモト](#)にお邪魔しました。智頭は鳥取県の東部にあり、吉野林業の施行を学んだ杉の産地です。

建材だけでなく、智頭杉の中ハギパネルや、家具、ブラインドなどインテリアも揃えることができます。

杉のブラインドは、珍しいだけでなくグッドデザイン賞も受賞してます！



2枚重ねの棧積: 棧木の痕がつくのを防ぎます ↑



引き違い戸のデザインが特徴的な TV 台。

雪に耐え、強く育った杉が智頭の杉です。



積雪のため枝が下に垂れています。

樹齢300年以上の江戸時代の杉の立木は圧巻です！

大人4人でやっと幹に手が回ります。直径100cmはあります！！

有形文化財 石谷家

大庄屋西谷家の住まいは林産地ならではの贅を尽くした住まいです。

棟まで12mはあります。梁は当然、地松で組んであります。

江戸時代は、塩の取引で財をなし、明治、大正、昭和は木材で財をなし、この住まいがその証です。

この住まいを今の建設費でいうと10億とかかかるそうですが、いくらお金をつんでも木材そのものがないというのが現在の林業の実態です。



初日最後の目的地は**石谷林業丸太市場**です。

訪れたときは、丸太が新たに搬入され、仕分けされていました。晩秋は原木取引の一番いいものが出てきます。

現在の流通量や取引原価などを説明していただきました。

皆さんもご存知のように、最盛期に比べると流通量は減り、原価は下がっているということです。

昭和 56 年度は、今の価格の最高で 5 倍はあったといわれています。

